

令和元年度 学校関係者評価書

1. 学校評価の年次報告について

- ①学校評価に係わる各種アンケートの情報収集は、年次計画通りすべて実施できた。
- ②学校関係者評価委員会の委員は、昨年度の委員の再任である。
- ③学校関係者評価委員会は、6月・11月・3月と年間3回開催した。
- ④学校関係者評価委員会の意見は、職員会議や運営委員会あるいは科会等において各教職員に復伝し、業務改善に努めた。

2. 学校関係者委員からの意見(3回分総括)

- ① 子供の自殺が社会問題となっているが、その原因を考えたとき、一つには子供自身の自己肯定感が余りにも不足していることが考えられる。成長とともに「心を育てる教育の実践」に取り組んでほしい。そして、スマホばかりを操作するばかりに明け暮れるのではなく、外に出て他者とコミュニケーションが取れ、良好な人間関係を築ける教育に高水学園は取り組んでほしい。
- ② 保護者に対して、学校がどのような進路指導がなされているのか、授業参観日や保護者会・個別面談等を通して知らせてほしい。あわせて、大学に進学する意義を生徒にはよく伝えてほしい。
- ③ 自己評価の中間報告では、当初の目標に対しての自己評価は低くはないものの決して高評価とはなっていなかった。しかし、年度末にあたっての自己評価どの項目も向上しており評価できる。来年度もこの状況がさらに高まるように期待したい。
- ④ 運動会や楽学祭等において、生徒から何らかの「評価」があっても良いかとも思う。
- ⑤ 高水高校は、以前からユネスコ活動が盛んに行われている。今後においても大いに活躍されることを期待したい。
- ⑥ 来年度から大学入試は大きく変わることが分かっている。その対策には万全を期し対応してもらいたい。あわせて、保護者も新テストの導入には不安を持っている人も多いので、できるだけ新テストの情報を知らせてほしい。
- ⑦ 今年度の進学実績は良好であるという報告を聞いた。その情報は、ネット等を通して広く世間に知らせてほしい。また、在校生に対しては来年度もこのような進学実績が上がるように課題や宿題を多く出してほしい。
- ⑧ 高水の生徒は、朝もよく挨拶をしてくれ、また登下校の自転車マナーも良い。教員の生活指導に向けた熱意が伝わってくる。
- ⑨ ボランティア活動や模擬国連への参加、科学の甲子園での好成績等など、生徒はよく頑張っていると思う。また、高校野球ではベスト8まで進出するなどスポーツも頑張っており高評価できる。
- ⑩ ボランティア活動の一環として、ヘアドメーション(髪の毛の寄付活動)への参加があっても良いのではないかと。あわせて、ペットボトルのキャップの回収が何故行われているのかの意義を生徒にはよく理解させる必要がある。
- ⑪ 次年度に向けて、生徒が「地域活動」へ積極的に参加するように促してほしい。